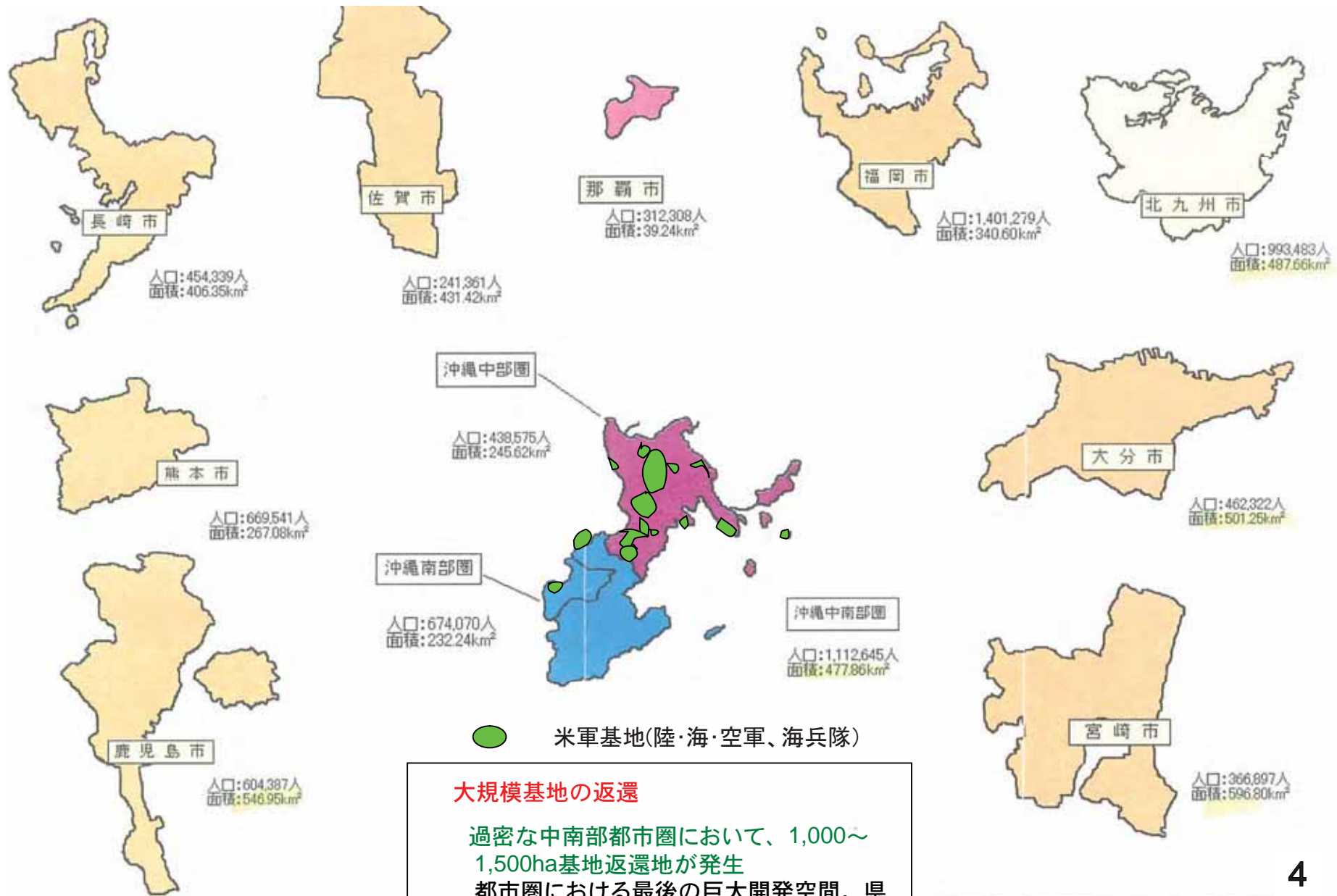
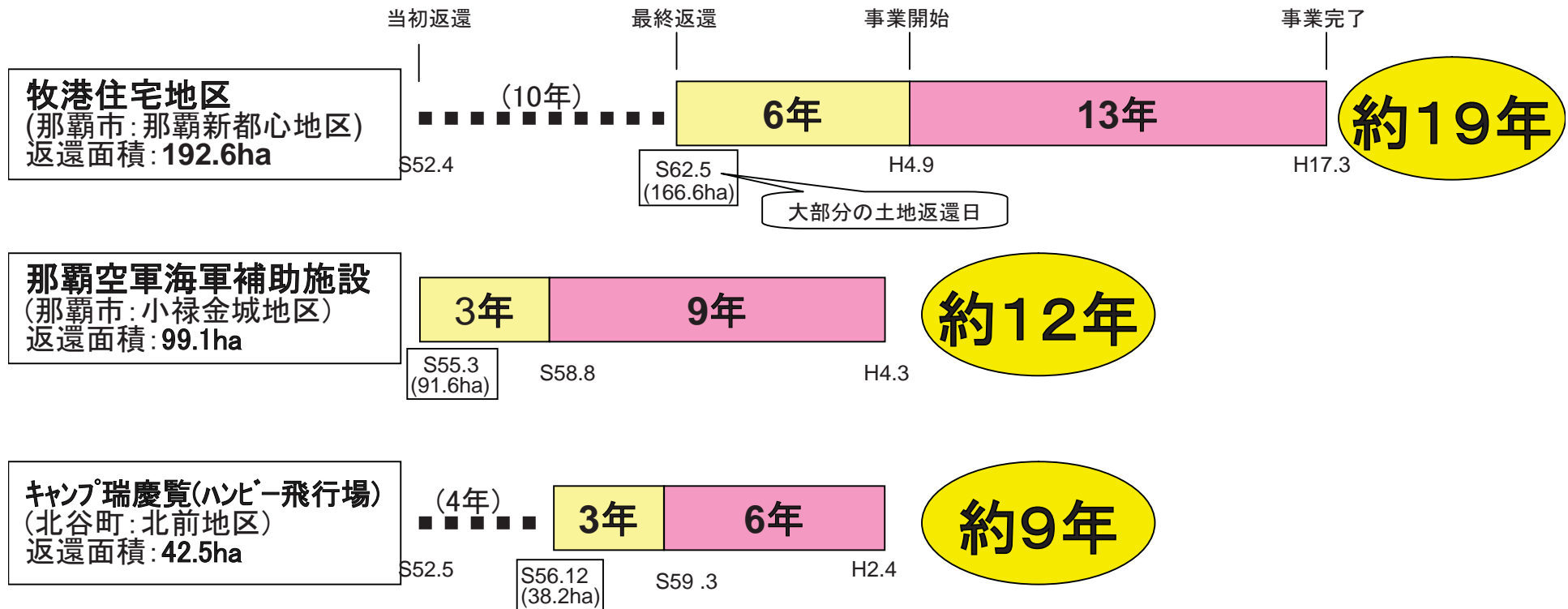


九州の主要都市との人口・面積の比較



土地返還から事業完了までの期間



- 返還～事業完了の期間は跡地面積に比例、那覇新都心地区(192ha)は19年を要した。
- 普天間飛行場(481ha)、牧港補給地区(273ha)は那覇新都心地区より遙かに面積が大きく、これまでのペースでは20年以上を要することが予想される。
- 返還前の基地内立入調査により、返還後の早期事業化を図ることが重要
- 事業期間の短縮のために、ノウハウと権限を持った事業実施主体が必要

基地返還後の不発弾・汚染物質の発見

アワセゴルフ場(平成22年9月)

キャンプ桑江北側地区(平成22年8月)

大量未使用・不発弾

桑江市のUO発射不発弾が見つかった衝撃もあやうな中、北中郷村の泡瀬ゴルフ場跡地から多数の不発弾が見つかった。地中埋蔵物があやうくなり、住民や地権者らは憤りと同時に不安を募らせる。戦後95年、沖縄の傷跡がまた残る。跡地利用への影響も

地元地権者 怒りと不安 「跡利用法的整備を」

足元 日常に潜む恐怖

上原市長 現場視察 磁気探査の周知

「泡瀬ゴルフ場跡」

「北中郷 泡瀬ゴルフ場跡地内で多数の不発弾が見つかった。地元の関係者地権者らは憤り、同時に不安を募らせる。戦後95年、沖縄の傷跡がまた残る。跡地利用への影響も」

琉球新報 沖縄タイムス
H22年 9月 10日(金)
朝・夕 33面

鉛も検出5カ月放置

防衛局、県・町に謝罪

桑江北側返還跡地

2008年に返還された米軍キャンプ桑江北側(糸谷町)の返還跡地で今年3月、米軍施設の廃材からアスベスト(石綿)が検出された。鉛も検出されたことが分かった。前編防衛局が防衛、北谷町や県を訴え、る方針で連絡しなかったことを謝罪しながら説明した。アスベスト、鉛ともに含有量は不明。検出場所が、現在利用に区画整理事業を進めているが、有害物質の発見で事業は約6カ月遅れる可能性も出てきた。(宮三保、川上夏子)

含有量不明 開発遅れも

防衛局の池田三好次長は「含有量不明で、有害物質がどこまであるかわからない」として、調査を急いでいる。県や業者と連携して、処理していくと述べた。含有量は、処理作業を行う前から即時、測定している。野田町長は「含有量不明で、有害物質がどこまであるかわからない」として、調査を急いでいる。県や業者と連携して、処理していくと述べた。含有量は、処理作業を行う前から即時、測定している。

琉球新報 沖縄タイムス
H22年 8月 26日(木)
朝・夕 25面